

# かいほつ 65号

題字 山由小学校  
三年 寛雅海



岡崎市現職研修委員会  
特別支援教育部会  
平成23年12月1日発行

## ▲イルカショーを見て大喜び！（六ツ美南部小）

「校長さんは、お・か・の・か・お・る・こ・さんを知ってる？」  
と、前任校でお世話になった総代さんから、唐突な切り出しの電話が届いた。とても慌てている様子だったので、急いで記憶を辿ったところ、岡野氏が国語の教材にあった「桃花片」の作者であることを思い出した。その氏を大樹寺に連れて行くので案内を依頼したいという内容の電話であった。

自分が若いころ何度も読み返した「桃花片」の作者と、直接お目にかかることができる幸せを感じながら待つこと三十分。氏は、常に笑みをたたえた穏やかな方であった。案内の最中に話が「桃花片」に及び、氏がこの作品で伝えたかったことは、「捨我の心」であることを語られた。「捨我」とは文字通り「我」を「捨てる」ということ。自分をおし出し過ぎるために真の美しさを見えにくくしている作中の主人公の姿から、捨我の心の大切さを思い、「教育」と重なるところが多いのではないかと改めて思った。

九月末日、岡崎ライオンズクラブ主催の小学校特別支援学級社会見学会が開催されたときのことである。いつもは気に入らないことがあると担任の手を焼かせるA君だが、さすがにこの日はかりはとも聞き分けがよかった。このぶんなら楽しい雰囲気のうち一日が過ぎせそうだと思っただけがよかった。とである。館内で昼食をとることを聞いたとたんに、A君一人だけががんとして「外で食べる」と言って聞こうとしない。また、A君は、イルカショーに向かう大混雑した通路で何やらリュックから取り出そうとした。他の人の迷惑にならないように諭すが、一向に止めようとしない。「A君の心が読めない」という自責の念にかられているとき、A君が取り出したのがカッパであることを知り、心の霧が一掃されるような思いがした。A君の心の一端が見えた気がしたからだ。きつと大好きな母親と本人との間で、「イルカショーのときにはカッパを着るように」という会話が楽しく交わされたに違いない。昼食時のぐずりも、用意したシートを敷くことにこだわったのであろう。「子供には子供なりのわけがある」と、「捨我の心」で子供側に立つて考えれば、もっと理解してあげられたであろうと自省しきりである。



「捨我の心」で見えてくるもの

大樹寺小学校長

天野道晴

# 子どもと親の集い

# ブロック交流会

矢作ブロック

夏満喫の交流会

矢作中 教諭 中野 悟

テーマは夏祭り。そこで、ゲーム大会、流しそうめん、かき氷を計画しました。流しそうめんの竹は、学区のお寺の竹林から調達。生徒と一緒に流しそうめん用に加工しました。会の始めは、学校ごとに準備したゲーム大会、射的、輪投げ、段ボールキヤタピラリレー、風船サッカー、どれもみんな楽しめました。昼食にはそうめん以外に、フランクフルト、矢作中の畑で収穫した枝豆が用意されました。かき氷はみんな大喜びでした。二学期にはクリスマス交流会も計画中です。



▲流しそうめんでおなかいっぱい



▲交流会への招待状(甲山ブロック)

## 甲山ブロック

### 楽しかった交流会

甲山中 三年 山口 靖矢

最初は、みんな一人ずつ順番に自己紹介をしました。根石小は、みんなでマルマルモリモリの踊りをおどって、とても楽しそうでした。梅園小はハンドベルの演奏をして、甲山中は、自分の特技や教科を発表しました。

レクリエーションの種目では、おにごっこのように相手を追いかけるしっぽ取りや、風船を地面に落とさないようにする風船バレーなどをしました。小学生と保護者の皆さんといっしょに楽しむことができてよかったです。最後に氷を削る機械でかき氷をつくりました。僕たちはシロップをかけて、みんなに配りました。暑い夏の日だったので、みんなおいしいと言ってくれました。よい思い出になりました。

## 学級の特徴ある取り組み

井田小 教諭 鈴木 金利

本校特別支援学級七、八組では、秋になるとどんぐりクッキー作りを楽しんでいます。

葵・城北ブロック交流会での「どんぐりハウス」の模擬店で、どんぐり転がしなどのゲーム後にそのクッキーをプレゼントしています。

クッキー作りには「マテバシイ」というどんぐりが向いています。それを煎って、中身を取り出し、パウダーにします。子供たちの目は真剣そのものです。

活動は以下の工程で進めています。

- ①材料の重さを量る(どんぐりパウダー、砂糖、小麦粉、バター)
- ②生地を丸める
- ③三十個に並べ、フォークで模様をつける
- ④焼いたクッキーを袋に二個ずつ詰める

袋詰めができたとき、子供たちはとてもうれしそうです。

子供たち手作りのどんぐりクッキーは、ブロック交流会で配付するだけでなく、交流学級の先生や子供たち、読み聞かせのボランティアの方へもプレゼントしています。

今年もどんぐりクッキー作りができることを子供たちは楽しみにしています。

## 職場体験学習

六ツ美北中 二年 市 陸

僕は夏休みに花の木苑へ職場体験学習に行きました。花の木苑は僕の家のお近くにありまして。だから、歩いていきました。朝、八時四十五分に家を出て、九時前に着きました。荷物をロッカーに入れて、食堂に行きました。あいさつをして、ラジオ体操をしました。

僕が担当したのはキャリアカットといって、オセロみたいな部品を白と黒に分ける作業でした。

お昼は食堂で給食を食べました。おいしかったです。午後は四時まで頑張りました。指導員の方に「集中してよくできました」とほめていただきました。それから、歩いて帰りました。

次の日は午前中だけ仕事をしました。午後は盆踊りの練習に参加しました。楽しかったです。



▲最初のあいさつでは少し緊張しました

# 社会見学

岡崎ライオンクラブ

城南小 六年 夏目 翔太

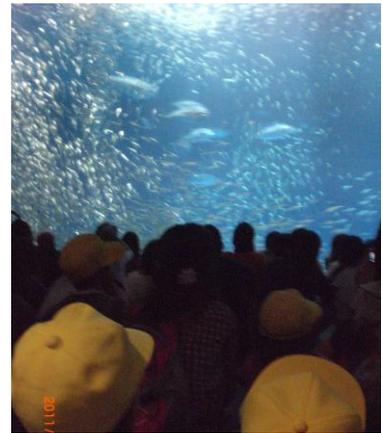
岡崎ライオンズクラブのみなさん、名古屋港水族館に招待してくださりありがとうございました。初めて行く場所だったので、行きのバスからとても楽しみでした。



▲サメと一緒にピース

はじめに、イルカショーを見ました。イルカがフラフープをくぐったり、ボールを鼻でついたりして、「すごいなあ」と思いました。途中、イルカが尾っぽで水をかけてきました。僕はびっくりしてその場から逃げました。一番楽しみにしていたのはサメを見ることでした。サメの顔が大好きで、サメと一緒に写真を撮りました。とてもうれしかったです。

のんほいパークも水族館も楽しくて、小学校でいい思い出ができました。



▲すごい！マイワシのトルネードだ！

北野小 一年 日下部 光紀

十月二十七日、おかぎライオンズクラブのおじさんたちがなごやこうすいぞくかんにしようたいしてくれました。

バスにのっていきました。ぼくは、はじめてだったのでとってもうれしかったです。

はじめに、イルカが、わをくぐったりジャンプをしたりするイルカショーをみました。ぜんぶがすごかったです。ぼくもイルカにのってみたいなあとおもいました。

つぎに、たのしみになっていたマイワシのトルネードをみました。マイワシがいっぱいおよいでいてすごかったです。ベルーガもみました。うちゅうせんにのっているみたいに、きれいにabayでいてかわいかったです。

## 学級紹介

六ツ美南部小学校



教諭 加藤 裕美

▲えーと、おつりは…

春、六・七組では、教室の前で花を育てました。水やり当番を曜日ごとに決め、スイセン、ナデシコ：たくさん開花した時は、小さな花束を作り、先生方を買っていただきました。おつりの計算に戸惑いながらも、子供達は嬉しそうに販売することができました。

夏は、畑でピーマンとパプリカを育てました。幾度もの大雨や台風にも倒れることなく、今も花を咲かせ、実がなっています。ピーマンは、百個を優に超えたでしょう。自分で収穫したピーマンは、家に持ち帰ります。ピーマンが苦手な子や家族で苦手な人たちも、我慢して食べてくださったそうです。

さて、ピーマンの次は何を育てましょうか。たくさん収穫でき、買い物学習にいかせる物



▲たくさんとれたよ

新香山中学校



教諭 鶴飼 礼美

▲上から まる絞り、菱しぼり、剣しぼり

新香山中学校の特別支援学級は四月にできた新しい学級です。四名の女子が毎日勉強や作業に取り組んでいます。中でも作業学習に力を入れていきます。はじめに花壇を耕して畑を作りました。夏にはたくさん野菜が収穫できました。さらに、グリーンカーテンに挑戦し、エコを意識することもできました。

次に、生徒たちが関心をもっている家庭科の学習の発展として、「しぼり細工」でブローチ作りをしました。しぼり細工には、丸しぼり、菱しぼり、剣しぼりの三種類があり、自分が選んだしぼりのプロフェッショナルになれるように集中して取り組んでいます。端切れはエコを意識してポタン磁石の製作に使い、無駄が極力少なくなるようにしています。ブロック交流会でみんなにプレゼントできるよう目標を決めて頑張っています。

〈退職された先生より〉

なつかしい日々

元六ツ美中 教諭 石原 千里

退職して数か月過ぎました。

先日、体育大会を参観させていただき、懐かしい子供たちや保護者にお会いすることができ、再びあの日々に戻ったような感覚がよみがえりました。

先生方のご指導で、確実に子供たちはあの頃より成長しており、たくましく、堂々と、かつ生き生きして見えました。その様子を海外にいらつしやるかつて共に担任した先生にもメールをし、喜び合いました。

私も子供たちからいろいろなことを学びましたが、生活の中に今も残っているのは、畑で作物を育てるようになったこと。今年はゴーヤとキウウリとナス、トマト、ピーマンを夏に育て（育ちませんでした）、秋に大根、春菊、ニンジン、ネギを植えました。男の子たちが深く耕し、苦土石灰や肥料をまき、畝づくりをしたことや、女の子たちと草取りをしたことなどを思い出しながら、一人、庭で汗を流しました。農作業をしても何かと子供たちとの日々を楽しく思い出します。

お互いにこれからもがんばろうね。



三教研夏季研修会

竜南中 教諭 松村 知代三

今年度の三教研夏季研修会は八月五日に蒲郡市民会館で開催されました。

午前中はNPO全国LD親の会理事である多久島睦美氏による講演がありました。子供の思いに寄り添う支援こそ子供に自信をもたせ、成長につながる一歩であることを教えていただきました。私は、第五分科会（作業・進路）に参加しました。

生徒たち自身が集めた材料を使って製作したミニツリーの販売を通して、人とかかわり方を学ぶ実践を提案しました。一人一人が課題をもって取り組み、目標を達成することで、できる自分に気付き、その中から生まれた自信こそが、「自立」につながることを改めて強く感じました。

助言者の先生からは、作業学習を始める前には、目標を明らかにし、効率よく作業を進めるためにカード等の視覚的な工夫をするとよいこと、作業日誌を作り、振り返りを行うことで次への意欲につながることを大切さを教えていただきました。

また、グループ討議では、各学校での作業学習の取り組みが発表され、今後の作業学習の参考になるものがたくさんありました。目指す生徒像を教師が把握し、そのための目標を設定し、作業学習を組み立てていく大切さを実感しました。

南中学校研究発表会

南中 教諭 伊藤 研治

六月八日、「自立をめざす生徒を支援する魅力ある学校づくり」を研究主題として、本校で研究発表会が行われました。

特別支援学級では「飾り傘づくり」を題材に、作業学習に取り組みました。スーパーマーケットの服装点検や「挨拶」「報告」「連絡」「相談」の大切さを感じとった後、工程別作業（流れ作業）で協力して「飾り傘」を完成させました。作業によって出来上がった部品を生徒相互で点検したり、授業中の写真をもとに、授業の振り返りを行ったりしました。進んで服装点検や授業の振り返りができるようになりました。



▲授業を振り返るA

授業力・教師力アップセミナー

小豆坂小 教諭 石川 裕美子

八月三日に、東京都立港特別支援学校・特別支援教育コーディネーターの川上康則先生より、「通常学級での特別支援教育―子供の理解と支援の具体策―」との題名で、四時間にわたってお話をお聞きすることができました。

子供たちの具体的な姿から、つまりまぎのサインの読み解き方や指導、支援の具体的な方向性の一つ一つ丁寧に、分かりやすく私たちに教えていただきました。すぐに現場で使えることが多くあり、うなずきながら聞くことができました。私は困ったときには先生の書かれた本を読み返してはパワーをいただいています。



▲時間を忘れる名講義でした